

裏面白紙

247

勅授

二六

丙  
第一四四〇

立案 昭和八年八月廿一日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

元内務技師和氣覺次郎外六名  
特旨叙位ノ件

昭和八年八月廿一日裁可  
八月廿一日官報報告済  
臺帳記入



元内務技師和氣覺次郎外六  
名特旨叙位ノ件  
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年八月二十日

内閣總理大臣東條英機



内

閣

裏面白紙

人内位第二八八號  
案起  
昭和十八年八月  
日  
裁可昭和十八年八月三十日  
施行  
昭  
和  
年  
月  
日

内閣總理大臣  
内閣書記官長

内閣書記官

元内務技師和氣覺次郎外六  
名特旨叙位ノ件

例文  
辭令案

内閣

内閣人内位第二八八號

敘從四位昭和十八年八月九日官大正十四年三月十三日任内務省技師以來在職十年以上内務技師正五位和氣覺次郎

右文武官敘位進階内則第四條ニ依リ謹テ奏ス

昭和十八年八月九日

内務大臣 安藤 紀三郎



内務省

めくれず

陸軍大臣東條英機

|      |                         |             |
|------|-------------------------|-------------|
| 叙正四位 | 昭和十八年八月二日<br>多摩部隊補佐     | 陸軍少將從四位倉茂周藏 |
| 叙從四位 | 昭和十八年八月二日<br>免特別志願將校    | 陸軍大佐正五位玉川元二 |
| 同    | 同                       | 同           |
| 同    | 昭和十五年十二月廿五日<br>以來在職十年以上 | 菅原慶作        |

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十八年八月十二日

陸軍大臣東條英機



陸軍

商工省

敍正三位  
昭和十八年八月十九日 元工業試験所技師 從三位北脇市太郎

右文武官叙位進階内則第四條依り謹テ奏ス

昭和十八年八月十九日

商工大臣 岸信介



商工省

内閣大印 第三十三号

敘正四位

昭和十八年八月九日大正八年六月十六日任朝鮮總督府勸業  
依願 免 官模範場技師以來在職十年以上

元朝鮮總督府技師從四位 油井 岱治

右文武官敘位進階内則第四條ニ依リ

謹 テ 奏 ス

昭和十八年 八月十八日

朝鮮總督 小 磯 國



朝鮮總督府

内閣人内院第一三三三號

叙正四位退 昭和十八年八月十日 大正八年三月二十五日 職判事以上 來退職臺灣總督府法院判官從四位 犬飼 吉備雄

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十八年 八月 十八日

臺灣總督 長谷川



臺灣總督府

上奏書用紙

(日本標準規格 B-4)

裏面白紙

| 履 歴         |          | 書   |          |
|-------------|----------|-----|----------|
| 年 月 日       | 要 項      | 資 格 | 在 職 年 數  |
| 明治三十二年三月廿六日 | 陸軍歩兵少尉   | 奏 任 | 二十九年七月七日 |
| 昭和十三年三月一日   | 陸軍少將     | 勅 任 | 二十九年七月七日 |
| 昭和十五年十二月二日  | 待 命      |     |          |
| 同 年同月三日     | 豫 備 役    |     |          |
| 同 年同月同日     | 臨時召集應召就職 |     |          |
| 昭和十六年五月一日   | 從 四 位    | 勅 任 | 二年八月     |
| 同 年八月二日     | 召集解除     |     | 二年八月     |
| 合 計         |          |     | 三十七年七月七日 |

陸軍少將從四位倉茂周藏

年 月 日 申年

裏面白紙

256

| 履 歴 書       |            | 陸軍大佐正五位 玉川 元二 |             |
|-------------|------------|---------------|-------------|
| 年 月 日       | 要 項        | 資 格           | 在 職 年 數 通 算 |
| 明治三十二年三月廿六日 | 陸軍歩兵少尉     | 奏 任           | シヤキ年二月三日    |
| 昭和十年八月一日    | 陸軍歩兵大佐     | 奏 任           | シヤキ年二月三日    |
| 昭和七年三月一日    | 待 命        |               |             |
| 同 年同月廿五日    | 豫 備 役      |               |             |
| 同 年四月十五日    | 特別志願將校採用就職 | 奏 任           |             |
| 昭和十四年九月十五日  | 正 五 位      |               | 五年三月十八日     |
| 昭和十五年九月十五日  | 陸軍大佐       | 奏 任           | 五年三月十八日     |
| 昭和十六年八月二日   | 免特別志願將校    |               |             |
| 合 計         |            |               | 三十二年五月三日    |

めくれず

裏面白紙

履歴書

陸軍大佐正五位菅原慶作

| 年      | 月  | 日     | 要項         | 資格 | 在職年数     | 通算       |
|--------|----|-------|------------|----|----------|----------|
| 明治三十二年 | 三月 | 廿六日   | 陸軍歩兵少尉     | 奏任 |          |          |
| 昭和十五年  | 八月 | 一日    | 陸軍歩兵大佐     | 奏任 | 三十七年七月六日 | 三十七年七月六日 |
| 同      | 年  | 同月同日  | 待命         |    |          |          |
| 同      | 年  | 同月二日  | 豫備役        |    |          |          |
| 同      | 年  | 同月同日  | 特別志願將校採用就職 |    |          |          |
| 同      | 年  | 九月十五日 | 陸軍大佐       | 奏任 | 三年二月     | 三年二月     |
| 同      | 年  | 十月十五日 | 正五位        |    |          |          |
| 昭和十六年  | 八月 | 二日    | 免特別志願將校    |    |          |          |
|        |    |       | 合          | 計  | 三十七年七月八日 |          |

内務大臣官房 甲第 三、五八八 號

別紙 和 氣 覺次郎 特 旨 敘位ノ件

上奏書進達ス

昭和十八年八月九日

内務大臣 安藤 紀三



内閣總理大臣 東條英機 殿

内務省



裏面白紙

陸位第七六二號

叙位ノ件進達

昭和十八年八月十二日

陸軍大臣東條英機



大閣總理大臣東條英機殿  
陸軍少將倉茂周藏外二名特旨叙位ノ件

右進達ハ

追テ右者豫備役轉役後直ニ再就職ヨリ一時其ノ取扱ヲ保留シ  
今回ノ召集解除及免本職ヲ機會ニ手續セルモノニ付申添フ

昭和十八年九月一日勅達

陸軍

商奏第二九六號

工業試験所技師北脇市太郎本年八月十九日依願免本官、處同人ハ高等官在職滿十年以上ニ及ヒ勤勞不貳候ニ付此際位一級被進度別紙上奏書進達ス

昭和十八年八月十九日

商工大臣 岸 信 介



内閣總理大臣東條英機殿

商 工 省

特旨敍位  
九月八日 期限

内務大臣官房 甲第三七二五號

別紙 油 井 岱 治 特旨 敍位ノ件

上奏書進達ス

昭和十八年八月十八日

内務大臣 安藤 紀三



内閣總理大臣 東條 英機 殿

内務省

丙 三



めくれず

めくれず

特旨敍位  
九月九日期限



内務大臣官房 甲第三七二八 號

別紙 犬飼吉備雄 特旨敍位ノ件

上奏書進達ス

昭和十八年八月十八日

内務大臣 安藤紀三郎



内閣總理大臣 東條英機殿

内務省

丙 三三九

裏面白紙

丙發第八三號

一陸軍少將從四位倉茂周藏外二名

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候條此旨及傳達候位記竝  
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年八月三十一日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

陸軍大臣

宮内省

丙  
發第一八三號

特旨ヲ以テ位一級被進

從三位北 脇市太郎

從三位北 脇市太郎

敘正三位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝  
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年八月三十一日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

商工大臣

宮内省

裏面白紙

裏面白紙

265

丙 癸 第一八三號

元朝鮮總督府技師從四位油井岱治外二名

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候條此旨及傳達候位記竝  
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年八月三十一日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

内務大臣

宮内省

裏面白紙

266

二號昇紙

丙發第 三八四號

一 元工業試験所技師正三位北陽市太郎

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十八年十月十四日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

福工大臣 宗秩寮

宮内省

裏面白紙

267

二號罫紙

丙 三三九號

一 陸軍少將正四位倉茂周藏外三名

右位記立辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十八年十月十四日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

陸軍大臣 東條英樹 殿

陸信少七六三号、七九七号

以上

宮内省